Ⅲ　本時の学習

　１　ねらい ※中心活動、理解する道徳的価値、養いたい道徳性を記述する。

　　　　　　　　（～の活動を通して、～に気付き、～を養う）

２　展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 主な学習活動  ○発問　☆児童生徒の意識 | 指導上の留意点及び支援 | 時間 |
| １　日常生活の振り返りなどを行う。  ○  ☆自分は、～の言動だったな。 | ※ねらいとなる価値への方向付けを行う。 | ５ |
| ２　中心発問に対する考えを伝え合い、本時の道徳的価値を追求する。    ○主人公等が置かれている状況等を問う。  中心発問 | ※中心発問を確実に捉えられるようにするために、主人公等が置かれている状況を端的に押さえる。  ※中心発問に対する考え（理由含）を発表させ、賛否・疑問・不安等の視点から話し合わせる。  ※Ａが出た場合の支援（賞賛）  ※Ａに気付かせるための支援  ※Ｃへの支援    ※ねらう道徳的価値を考えられるように、必要に応じて広げたり、つなげたりする。  （問い返し）  ※ねらう道徳的価値を考えら　れるように、必要に応じて　揺さぶる。（問い返し）  【評価の視点】  ○○という考えに気付いている。  （発表、プリントの記述） | 10 |
| ☆Ａ（自立的判断レベル）  ☆Ｂ（社会的判断レベル、他律的判断レベル）  ☆Ｃ（自己中心的な判断レベル）  ◇参考:吾妻教育事務所ホームページ「道徳科 構想メモ」  （発問で考えを広げた場合の児童生徒の意識）  ☆Ａ君の考えと同じ○○だけど、理由が違うな。  ☆△△ということがあったから、やっぱり○○した方がいいよね。  （発問で考えを揺さぶった場合の児童生徒の意識）  ☆でも、○○するのはちょっと恥ずかしいな。  ☆○○するよさがよく分かったので、恥ずかしいけど、今度からはいつでも○○するぞ。  ※道徳性に係る成長の様子を評価するため  以下の２点を重視。  ○一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている  ○道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている | 20  (25) |
| ３　ねらいとする道徳的価値に対する思いや願　　い、考えを振り返る。  〈振り返りの姿〉  ☆今までの自分は○○だった。でもこれからは、少し恥ずかしいけど、～のためにしっかり○○したい。 | ※価値理解したことを自己の生き方につなげさせる。 | 10 |